



在宅医を増やそうプロジェクト

1 人の人間の力はとても小さなものです。ちっぽけで、何もできないと感じることもあります。それでも、小さな力が合わさっていくとき、大きな力になります。

2年前には、まだエンドオブライフ・ケア協会はありませんでした。それぞれの場所で、苦しむ人の力になりたいと思いつつも、どのように関わって良いかわからずに苦しんでいた人がいます。誰からも評価を受けなくても、誠実に苦しむ人に関わろうとしていた人がいます。しかし、あまりの苦しさのため心が折れてしまい、挫けそうになった人もいます。

この2年間で、本当に多くの仲間が増えました。それも大きな緩和ケア病棟の医師や看護師さんではなく、どちらかといえば、小さな規模で活動されている診療所の医師や、地道に活動されている訪問看護師さん、看取り対応に取り組もうとしている介護施設のスタッフさんや、今までなかなか医師や看護師さんと話をするのを苦手としていた介護職の皆さんです。小さなつながりが徐々に大きくなろうとしています。

その一方で、このままで大丈夫かという不安もあります。2025年まであと384週程度です。そのうち、正月、GW、お盆、シルバーウィークなどを除くと、あと350週程度しか残されていません。わずか350回の週末で、何回の人材育成の講座を開催できるでしょう。

これは、私の直感ですが、医師の力が大きく影響すると感じています。1人の医師が変わると、30人の看護師に影響を与え300人の介護の人が変化し3000人の患者さん・家族が恩恵を受けると感じています。

限られた時間の中で、大きな変化を求めるのであれば、在宅医を増やすことが求められます。それも営利的な感覚で医療を行うのではなく、地域で苦しむ人の力になりたいと志を持つ医師の育成が必要です。

そんな夢を形にするために1つのプロジェクトを立案しました。題して「在宅医を増やそうプロジェクト」です。悠翔会の佐々木先生、新宿ヒロクリニックの英先生にご賛同いただきました。さらに医師のキャリアアップに実績のあるエムスリーキャリアの青木さんにもご協力を頂くことができました。以下のミッショ

ンを掲げ、2017年7月8日(土)午後・9日(日)午前の2日間でセミナーを開催します。いくつになっても夢を追いかけたいと思います。どんなに困難な時代が待ち構えていても、たとえ道のりは険しくても、そこに苦しむ人がいるのであれば、その人の力になれるような医師が1人でも増えて行くことを夢見ています。(※対象は医学生・研修医・そして医師としていきます。ご了承ください)

<<ミッション>>

- ①在宅医療の魅力を知る
- ②社会的使命と課題を理解する
- ③使命を果たす・課題を解決するために何をすべきかを主体的に考え、学びを継続するきっかけをつくる
- ④自身の進路として在宅医療を現実的に考えられる

2017年7月8日(土) 13:00~17:00

※懇親会 19:00~予定(実費)

2017年7月9日(日) 9:00~12:00

会場:リロの会議室「田町」

東京都港区芝5-26-24 田町スクエア5F

参加費:医師4,000円/研修医2,000円/医学生無料

アクセス:JR田町駅徒歩3分

小澤竹俊

福崎先生が異動、野口先生、津山先生が常勤になりました

3月で福崎先生が湘南中央病院に異動され、野口先生、津山先生が4月より常勤になりました。これからは地域で在宅緩和ケアを必要とする患者さん・家族の支援を24時間・365日体制を維持して参ります。そして、在宅緩和ケアを学びに来る医師を積極的に受け入れ、1人でも志のある医師を輩出することができるように活動を続けて参ります。

診療実績

	2006-2016年	2016年1月	2017年2月	2017年3月	2017年計	総計
訪問回数	50,852	735	729	826	2,290	53,142
自宅永眠	1,769	15	11	17	43	1,812
施設永眠	218	6	3	2	11	229
在宅(自宅+施設)	1,987	21	14	19	54	2,041
病院永眠	487	7	8	14	29	516